

1998年度春季巡検会の報告：
静岡空港建設工事現場巡検記

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-05-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 森, 伸一, 伊藤, 通玄 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025157

1998年度春季巡検会の報告

～静岡空港建設工事現場巡検記～

森 伸 一*・伊藤 通 玄**

1998年度の春季巡検は、1993年度の冬季巡検地「静岡空港建設予定地周辺」の5年後の変貌を現地を確認するために計画されたが、施工段階を迎えた現地の事情から実施日時が3月24日(水)午後となったため、参加を希望されながら断念された方があり総勢16名の参加に留まった。とはいえ、天候不安定な春先にしては期待以上の好天に恵まれた巡検会であった。

湯日事務所での概要説明

参加者は午後1時までに静岡空港建設局湯日事務所（島田市湯日）に集合し、静岡空港建設事務所工事課長の鈴木幸雄技監から、「空港だより第46号」（99年2月発行）および別紙資料「環境保全対策」をベースに、管理面積190ha（周辺部を加えると530ha）、総盛土量2,700万 m^3 、滑走路延長2,500m、総事業費約1,900億円の空港建設工事の進捗状況や環境対策について説明を受けた。

自然環境の保全対策については、地形改変地区（280ha）は舗装部分を除きできるだけ緑地を確保、斜面部は現地自生種による緑化を進め、環境保全区域（250ha）の荒廃人工林は間伐し、多様な動植物の生息に適した環境整備に努めるとのことであった。

参加者からは関連質問として、「このような起伏の多い場所が空港用地として選ばれた経緯は？」とか「霧の発生しやすい気象条件では？」など、施工者にとって耳の痛い質問も出されたが、残念ながら明快な回答は得られなかった。事務所内には空港建設予定地の平面図・断面図が用意されており、断面図上には泥質軟岩（相良層群切山泥岩優勢互層）を主とした盛土材のゾーニング計画が示されていたが、具体的検討は試験盛土の結果待ちのようである。

約1時間の室内説明・質疑ののち、鈴木幸雄技監および落合孟郎環境監視員の案内でマイ・カーに分乗し、物見塚山頂（標高210m）近くの工事現場に向かった。

物見塚周辺の観察（図1A地点、標高189m）

物見塚頂上にはNHKとSBSのテレビ中継塔があり、地元小学校の手頃な遠足コースとなっている。ここからは大井川下流、志太平野、富士山が一望でき、この日も素晴らしい展望を得ることができたが、すでに物見塚の東側、北側の山稜部は切り取られ、あちこちに新鮮な地層断面が見られた（写真1）。滑走路中心点（標点）の計画標高は132mなので、物見塚もいずれこの高さまで切り取られてしまう運命にある。

この付近の地質は図1でも判るように、最上部は第四紀更新世に堆積した坂部原礫層（牧の原礫層より古い大井川系礫層）で、その下位には新第三紀中新世後期～新鮮世前期に堆積した相良層群の泥岩優勢互層（風化部は黄褐色、新鮮部は暗灰色）が分布している。切り土工事で生じた新鮮な露頭で両層の境界面（不整合面）を直接確かめたかったが、工事車輛の動きが激しく危険なため、両層の特

* 静岡県立焼津中央高等学校 ** 静岡県地学会会長

微や不整合面の確認はB地点で行った。

物見塚南南東地点の観察（図1 B地点、標高148 m）

この付近は切り土したうえ、ターミナルが置かれる予定地点であるが、標高150 m付近の切り取り斜面に相良層群の泥岩優勢の砂岩・泥岩互層（切山層）と大井川系砂岩の垂角礫を主とし垂円礫を含む礫層（坂部原礫層）が露出しており、両層の不整合面を直接観察することができた（写真2）。切山層に含まれる薄い砂岩層の配列から、その構造を知ることができた（走向EW 傾斜20°S）。このあと、鈴木技監・落合巡視員の案内により、空港建設工事によって移植や増殖が必要となった貴重な動植物のために造られたビオトープを見学するため赤坂池下に移動した。

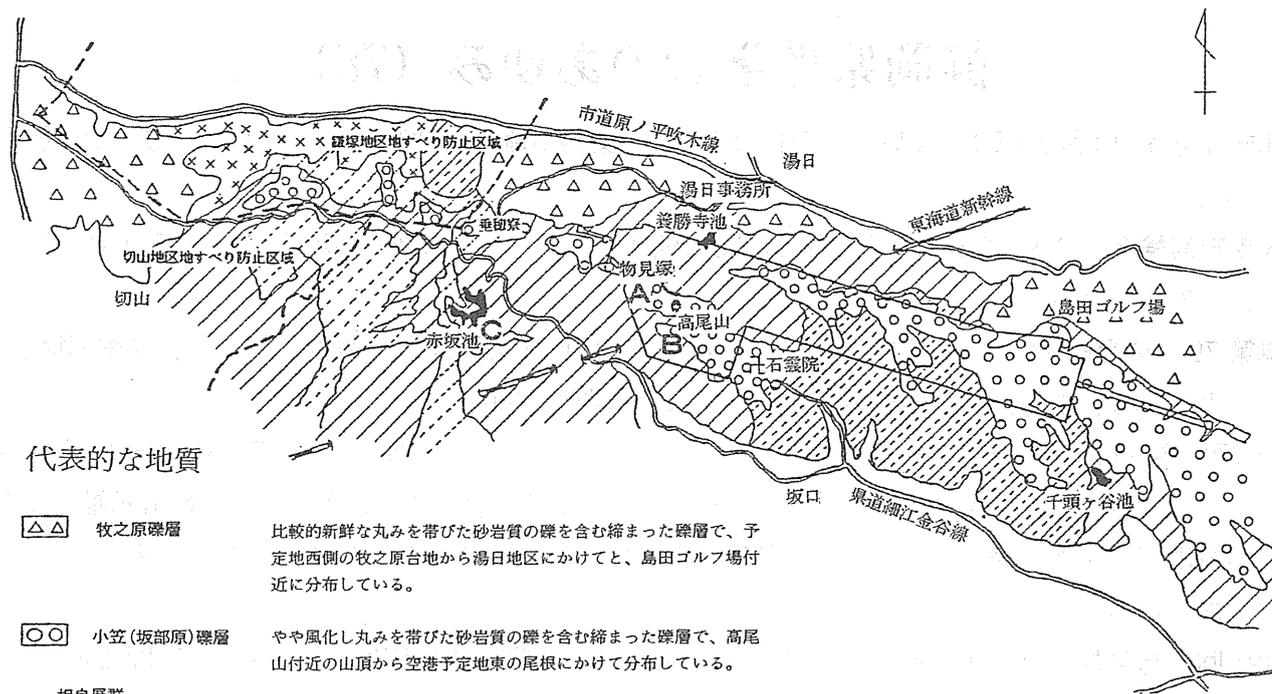
赤坂池下の観察（図1 C地点、標高約100 m）

赤坂池は農業用の人工池であるが、常に流出水があることに着目して、堤防下の湿地に貴重な動植物の移植・増殖用ビオトープが作られ、水辺の環境整備が行われていた。すでにホタルの幼虫が放流され、カジカガエルの「おたまじゃくし」が移植されたタコノアシの合間に数多く見られた。

昨夏の台風に伴う豪雨によって付近で崖崩れが起きかなりの土砂流出があったため、整備工事が予定より遅れたとのことであるが、現大井川から運ばれた新鮮な河川礫を配した小川のほとりにシヨウブ、そのまわりにはキブシ・ヤナギなどが植えられ、完成まであと少しと見受けられた。周囲の相良層群が泥岩優勢の軟岩であるだけに、今後も崖崩れや土砂流出の危険性があるのではなかろうか。

時間的制約のため、空港建設工事に伴う洪水防止・土砂流出防止用調節池の現場見学は省略したが、異常気象の多発するなかで長期に亘り大量の軟質土が切り盛りされる巨大工事であるだけに、防災工事とりわけ排水工事や調節池工事の万全を期して頂きたいと思う。それにしても、空港計画段階から問題視されていた静岡空港の必要性、立地条件・経済性・安全性などについて、改めて考えさせられた巡検会であった。

末筆ながら、年度末の超繁忙期にもかかわらずご案内頂いた鈴木技監・落合巡視員をはじめ、現地の地質状況について補足説明された柴 正博会員に厚く御礼申しあげる。



代表的な地質

- 牧之原礫層

比較的新鮮な丸みを帯びた砂岩質の礫を含む締まった礫層で、予定地西側の牧之原台地から湯日地区にかけて、島田ゴルフ場付近に分布している。
- 小笠(坂部原)礫層

やや風化し丸みを帯びた砂岩質の礫を含む締まった礫層で、高尾山付近の山頂から空港予定地東の尾根にかけて分布している。
- 相良層群
 - 泥岩層

空港予定地西側の切山地区付近に分布している。
 - 泥岩・礫岩の互層

泥岩と礫岩が相互に重なった固結良好な地層で、石雲院付近から千頭ヶ谷池付近にかけて泥岩・砂岩互層の上部に分布している。
 - 泥岩・砂岩の互層

泥岩と砂岩が相互に重なった地層で、空港予定地一帯の基盤岩をなしている。
 - 瀬戸川層群

空港予定地周辺では一番古い地層で貝岩や砂岩で構成され、湯日川上流に分布している。

図1 静岡空港建設工事現場周辺地質図
～静岡空港計画関連資料より転載

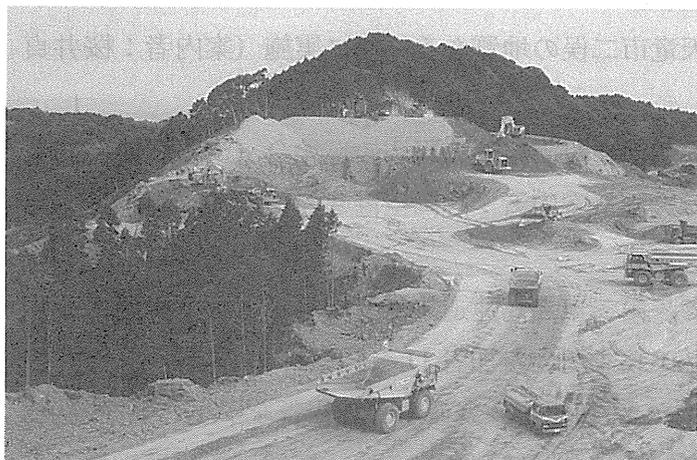


写真1 物見塚付近より高尾山(標高200m)
西側の切り土工事を望む

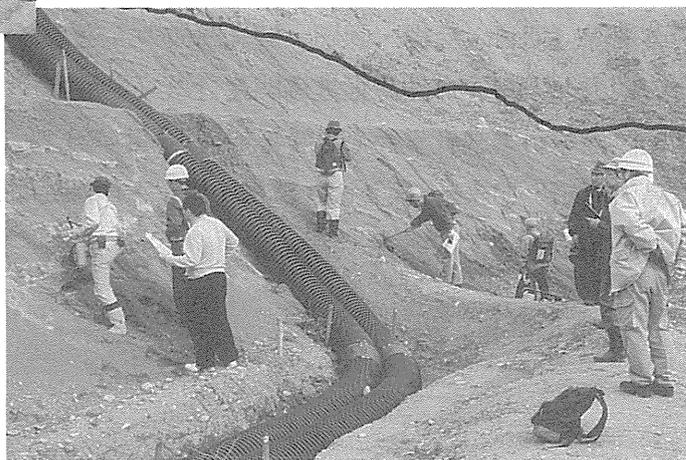


写真2 空港ターミナル予定地点の露頭観察
黒線は相良層群切山泥岩優勢互層(下部)
と坂部原礫層(上部)との境界(不整合)